

# 総合型地域スポーツクラブ設立のための住民調査 (2)

—吉井スポレククラブの場合—

Inhabitants investigation for the establishment of the local synthesis sports club (2)

— The case of the Yoshii Sports Recreation Club —

体育学部体育学科  
山本 孔一  
YAMAMOTO, Koichi  
Department of Physical Education  
Faculty of Physical Education

愛媛大学教育学部  
堺 賢治  
SAKAI, Kennji  
Department of education  
Ehime University

教職センター  
塩原 正長  
SHIOHARA, Masanaga  
Section of Teaching Profession center

キーワード：総合型地域スポーツクラブ，地域コミュニティ，レクリエーション

**Abstract** : On 26th August, 2010, the result that had been examined regarding the basic policy of the future "Strategy of the sports nation" was announced by Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. The announcement included the aim, basic idea, five emphasis strategies and main measures of the "Strategy of the sports nation". The announcement also included the heading called "Creation of sports according to the life stage at the chance". The main objective of "Creation of sports according to the life stage at the chance" is to achieve the lifelong sports society. Within this society, people can be familiar with sports according to their physical strength, age, techniques, interest and purpose indefinitely anytime and anywhere. And, the second objective is to increase adult's weekly sports execution rate of one or more sports. It is ideal to increase to 2/3 adults in the early stage. The third objective is to achieve a rich sports life. In order to achieve the third objective, it is important to enhance both the school physical education and the extracurricular activities. As a one of concrete measure to achieve this third objective, "Maintenance of regional sports environment that centers on the local synthesis sports club" was enumerated. Promoting community sports club that bears new public; enhance training and use of talent who leads regional sports; securing the place of sporting activities; and promotion of effective use of school physical education facilities were enumerated.

It cooperates as an object of this investigation with the Akaiwa City Yoshii Sports Recreation Club establishment preparation committee. In order to establish a local synthesis sports club that is based on local people opinion, the investigation was executed.

This study focuses it on Yoshii Sports Recreation Club (Akaiwa-City, Yoshii-area). The purposes of the study are as follows: first, the study focusing the realities of resident's sporting activities and needs; secondly, obtaining the material for the club establishment; finally, clarify whether Yoshii Sports Recreation Centre contributes to the community formation.

**Keywords** : local synthesis sports club, local community, recreation

## I. 序論

平成22年8月26日、文部科学省では、今後の我が国のスポーツ政策に基本的方向性を示す「スポーツ立国戦略」の策定に向けて検討を進めてきた結果を公表した。その中で「スポーツ立国戦略」の目指す姿、基本的な考え方、5つの重点戦略の目標と主な施策が示され、その中に「ライフステージに応じたスポーツの機会の創造」という項目がある。その第一目標として国民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現する。そして第二目標としてできるかぎり早期に成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人、成人の週3回以上のスポーツ実施率が3人に1人となることをめざす。そして第三目標に豊かなスポーツライフを実現する基礎となる学校体育・運動部活動の充実を図るとある。その目標を達成するための具体施策として「総合型地域スポーツクラブを中心とした地域スポーツ環境の整備」が挙げられ、トップアスリート等を活用した魅力あるスポーツサービスの提供、新しい公共を担うコミュニティスポーツクラブの推進、地域スポーツを担う人材の養成・活用の充実、身近なスポーツ活動の場の確保、学校体育施設の有効活用の推進などが列挙されている。

今回調査の対象として赤磐市吉井スポレククラブ設立準備委員会と協力し合い、総合型地域スポーツクラブ立ち上げに関し、地域住民の意見を十分踏まえた運動・スポーツ活動を展開していくために調査を実施した。

本研究では吉井スポレククラブ（赤磐市吉井地区）に焦点を合わせ、第一に住民のスポーツ活動の実態やニーズを把握し、第二にクラブ設立のための資料を得ること、第三に吉井スポレククラブがコミュニティ形成に寄与しているかを明確にすることを目的とした。  
注）赤磐市吉井地区（旧吉井町）は、平成17年3月7日の合併までは吉井町として、土地面積は86.07km<sup>2</sup>で赤磐市総面積の41%を占め、人口では5,212人で総人口の11%である。高齢化率は37.18%である。赤磐市の産業では農家人口総数が11,958人と総人口の26%を占めている。毎年、春に城山公園祭りが開催される茶臼山城跡は、現在の吉井地域のシンボルの一つであり、歴史を学べる場所のほか、竜天天文台公園や竜天オートキャンプ場、布都美林間学校など、学びながら自然と一体になれる場所が数多くある。

## II. 調査方法

- (1) 調査対象：岡山県赤磐市吉井町地域の小学生、中学生、一般社会人を含む570名
- (2) 調査時期：2010年9月
- (3) 調査方法：質問紙による配票調査
- (4) 回収率：有効回収数390部 有効回収率68.4%
- (5) 分析の視点

①性別：男性（N = 126 32.3%）  
女性（N = 264 67.7%）

②クラブ加入の有無

吉井スポレククラブ(2011年3月設立予定であるが、会員募集は2010年4月より始めている)への加入の有無によって、加入している人をA群、加入希望者をB群、加入したくない人をC群とした。A群が14.4%であり、これからのクラブであることがわかる。クラブ加入の有無(図1・2)

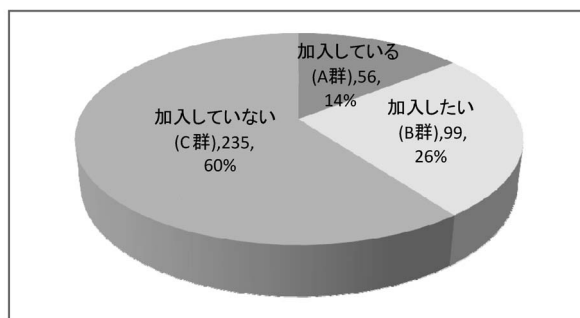


図1

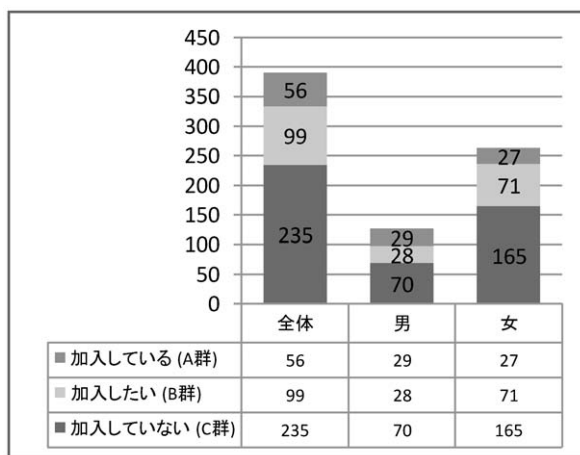


図2

## III. 結果及び考案

### 1. 年齢

図3は年齢について示したものである。全体では、「10歳代」が40.6%、「30歳代」が23.0%、「40歳代」が

22.0%、「20歳代」が7.4%、「50歳代」が5.7%、「60歳代以上」が0.8%であり、「50歳代」と「60歳代以上」が少ない。また、無効になった調査票は「60歳代以上」が一番多い。性別では差はみられない。

加入の有無別に比較すると、A群では、「10歳代」、「40歳代」が多く、「20歳代」、「50歳代」と「60歳代以上」が少ない。若者と高齢者のクラブへの加入が課題であることがわかる。

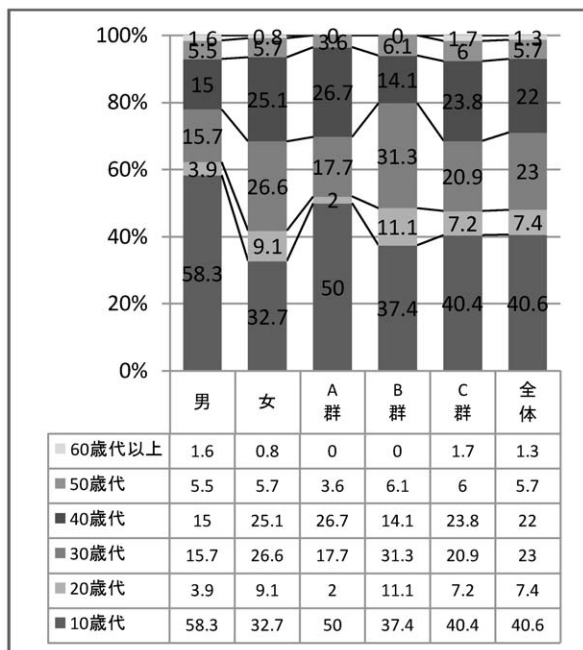


図3

## 2. スポーツ活動

### (1) 種目

表1は、過去1年間によく行ったスポーツ種目についてすべて示したものである。全体では、1位が「水泳」で14.3%。2位が「ソフトボール」と「散歩・ウォーキング」で10.5%である。手軽に個人で行える種目が多くなっている。性別で比較すると、女性は、「バレーボール」・「水泳」・「散歩・ウォーキング」が多いのに対し、男性は「ソフトボール」・「軟式野球」・「バスケットボール」・「サッカー」が多い。特筆すべきは、男性はチームスポーツが上位を占めている。また、「水泳」が多いのは、室内プールが体育施設に隣接していて利便性があるからである。

加入の有無別に比較すると、A群では「ソフトボール」が37.5%と最も多く、次いで「バレーボール」の30.3%、「サッカー」の23.2%であり、既存のクラブで活動している種目が多い。一方、B群やC群は「散歩・ウォーキング」・「水泳」・「バドミントン」などの気軽に行えるものが増えてきている。なお、レクリエー

ションスポーツもアンケートに入れてみたが、グランドゴルフ以外は皆無である。

表1

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
水泳	17	13.3	25	12.1	12.8	14.3
ソフトボール	22.8	6.4	37.5	13.1	5.1	10.5
散歩・ウォーキング	7.1	12.2	3.5	9.1	12.8	10.5
バドミントン	7.9	10.2	5.3	10.1	10.2	9.5
軟式テニス	15	4.9	3.5	4	11.1	8.2
バレーボール	4.7	13.6	30.3	7.1	7.7	6.9
武道(柔道・剣道・空手など)	12.6	3.8	8.9	10.1	4.7	6.7
軟式野球	18.9	0.3	8.9	9.1	4.7	6.4
バスケットボール	18.1	4.2	5.3	6.1	6.4	6.1
ゴルフ	11.8	3	7.1	6.1	5.5	5.9
ボウリング	7.1	4.9	3.5	8.1	5.1	5.6
卓球	8.7	3.4	8.9	5.1	4.3	5.1
サッカー	18.1	1.5	23.2	5.1	3.8	4.4
ドッジボール	6.3	5.7	5.3	10.1	0.8	3.8
ソフトバレーボール	1.6	4.5	7.1	1	3.8	3.6
その他	3.9	1.9	3.5	3	2.1	3.3
スキー・スノーボード	4.7	2.3	3.5	3	3	3.1
ヨガ	1.6	3.4	7.1	3	1.7	2.8
硬式野球	2.4	0	1.7	2	0	2.3
ダンス	0	1.1	1.7	1	0.4	2.3
ハイキング	4	0.7	1.7	1	2.1	1.8
エアロビクス	0	2.7	3.5	1	1.7	1.8
ジョギング	4	3.8	1.7	1	1.7	1.5
硬式テニス	1.6	0	1.7	1	0	0.5
太極拳	0.8	3.8	1.7	0	0.4	0.5
グランドゴルフ	0	3.8	0	1	0.4	0.5
フットサル	0.8	0	0	1	0	0.3
ゲートボール	0	0	0	0	0	0
ベタンク	0	0	0	0	0	0
インディアカ	0	0	0	0	0	0
ハンドボール	0	0	0	0	0	0
行っていない	11	33.8	5.3	24.2	32.3	26.4

### (2) 頻度

図4は、過去1年間のスポーツ実施頻度をあらわしたものである。全体では、「週に3回以上」が21.5%、「週に1～2回」が24.1%であり、「週に1回以上」スポーツを行っている人は、45.6%となっている。これを全国の調査と比較すると、週1回以上スポーツを行っている人は37.2%であり、平均より高い数字を残している。また、岡山県の調査では、週に1回以上スポーツを行っている人は、27.6%であり、岡山県内ではスポーツを行っている人の多い地域である。性別で比較すると、週に1回以上スポーツを行っている人は、男性60.6%、女性26.4%であり、男性の方が多い。また、行っていない人も女性の方が31.6%と男性10.2%を上回り、女性の運動実施頻度がかなり低い傾向がみられる。

加入の有無別に比較すると、週に1回以上スポーツを行っている人は、A群が78.5%、B群が40.4%、C群が40.0%であり、吉井スポレククラブの活動が実施

頻度に寄与していることがわかる。

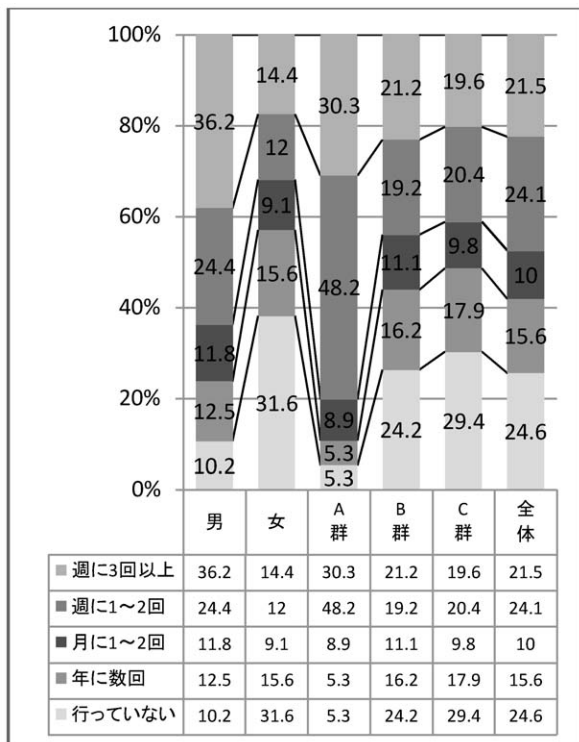


図4

### (3) 施設

表2は、過去1年間のスポーツ実施場所をあらわしたものである。全体では、「学校の体育施設」が39.2%、次いで、「公共スポーツ施設」の24%、「道路」の8.2%、「商業スポーツ施設」の6.2%の順である。「学校の体育施設」を「公共スポーツ施設」以上に使用しているのは、容易に使える施設であると考えられる。性別で比較すると、男性は「学校の体育施設」が最も多くなっており、これは男性がよく実施している「ソフトボール」・「サッカー」と関係していると考えられる。女性も、「学校の体育施設」が多くなっており、これは「バレーボール」・「ソフトバレーボール」などのママさんバレー部の以前からの既得権利で継続しているからである。次に「公共スポーツ施設」が高いのは、平日の朝や昼は「学校の体育施設」が出来ないからだと考えられる。また「散歩・ウォーキング」で使用する「道路」も多い。

加入の有無別で比較すると、「学校の体育施設」はA群が60.7%と圧倒的に多く、吉井スポレククラブの活動の拠点になっていることがわかる。また、「商業スポーツ施設」と「道路」はB群とC群が多い。この理由として、「学校の体育施設」は昼間に使用できず、さらに個人には開放されていないため、クラブに加入していないと利用できないことがあげられる。

表2

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
学校の体育施設	50.3	33.8	60.7	39.3	34	39.2
公共スポーツ施設	29.1	21.2	42.8	0.3	16.2	24
自宅	11.8	9.1	10.7	8.1	10.6	10
道路	11	7.6	5.3	8.1	8.9	8.2
商業スポーツ施設	8.6	4.9	5.3	7.1	6	6.2
公園・空き地	6.2	5.7	3.5	12.1	3.8	5.9
野外(海・山・川)	3.9	4.9	3.5	4	5.1	4.6
職場のスポーツ施設	23.6	1.5	3.5	2	1.3	1.8
その他	1.5	1.9	0	2	0	1.5

### (4) クラブ加入

表3は、過去1年間のスポーツクラブ加入の有無と形態についてあらわしたものである。全体では、スポーツクラブに加入率は44.4%であり、岡山県の調査と比較すると、岡山県では17.7%であり、吉井地区のスポーツクラブの加入率は高いといえる。形態としては、「吉井スポレククラブ」に加入している人が10.0%と最も多く、次いで、「仲間で作ったクラブ」の7.9%である。性別で比較すると、スポーツクラブに加入している人は、男性が56.7%、女性が38.5%であり、男性の方がやや加入率が高い。

加入の有無別に比較すると、クラブに加入している人は、A群が100%、B群が39.4%、加入率が高い。形態を比べると、A群では「体育協会のクラブ」や「仲間で作ったクラブ」に重ねて加入している人も多くみられた。総合地域スポーツクラブでも、「民間のスポーツクラブ」のような教室を行うことは可能であり、多くの人が自分の地域でスポーツを行える環境を作り、スポーツを通じて地域との関係を深められるクラブが求められる。

表3

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
体育協会のクラブ	6.2	3.8	14.2	4	2.6	4.6
仲間で作ったクラブ	3.9	9.9	14.2	7.1	6.8	7.9
職場や仕事の関係で作ったクラブ	7.8	1.1	5.3	2	3.4	3.3
民間のスポーツクラブ	4.7	1.9	3.5	6.1	0.9	2.6
吉井スポレククラブ	14.9	7.6	60.7	3	0.9	10
その他	11.8	6.8	12.5	12.1	6.0	8.5
加入していない	43.3	61.5	0	60.6	66.8	55.6

### (5) 今後のスポーツ活動

表4は、今後行ってみたいスポーツ種目上位21種目までについてあらわしたものである。全体では、「ヨガ」が19.5%と最も多く、次いで「バドミントン」の18.7%、「水泳」の18.5%、「ボウリング」の18.2%、「軟式テニス」の15.9%となっている。現在行っている種



目を今後とも引き続き行いたいと思っている人が多いと考えられる。しかし、「フットサル」や「ソフトバレーボール」、また、レクリエーションスポーツ種目は上位に入っておらず、「ヨガ」や「水泳」が上位に入っており、チームで行う種目よりも、個人的に、気軽に行える種目のニーズが高くなっている。性別で比較すると、男女ともに、「軟式テニス」、「水泳」が多くなっている。また、男性は、多くの種目に分散し、ニーズが多様化していることがうかがわれる。一方、女性は、「ヨガ」、「バドミントン」が多くなるなど個人で行えるスポーツに対してニーズが高まっているといえる。

加入の有無別に比較すると、A群は、1位「軟式野球」が19.6%、2位「水泳」「バレーボール」が16.0%で3位「ヨガ」「バドミントン」「サッカー」が14.2%と多く、4位「ボウリング」が12.5%と多く、現在行っている種目を今後も行いたいと思っている。B群では全体でも多い「ダンス」「ヨガ」「卓球」に加えて、「ボウリング」「軟式テニス」「硬式テニス」にもニーズがある。加入を希望している人を加入へと導くためには、ニーズの高い種目を取り入れることが大切だといえる。

表4

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
ヨガ	3.9	25.5	14.2	21.2	18.3	19.5
バドミントン	8.7	20.5	14.2	13.1	19.6	18.7
水泳	11	18.2	16	13.1	17	18.5
ボウリング	20.5	9.1	12.5	14.1	12.8	18.2
軟式テニス	13.4	11	3.5	15.1	12.3	15.9
散歩・ウォーキング	7.9	15.2	5.3	11.1	14.5	14.6
ダンス	2.4	19	5.3	25.2	10.6	14.1
バレーボール	4.7	12.9	16	13.1	10.2	13.3
スキー・スノーボード	9.4	11.4	7.1	9.1	12.3	13.1
サッカー	11	3	14.2	7.1	7.2	12.8
卓球	13.4	7.6	7.1	16.1	5.5	12.8
ゴルフ	15	5.3	7.1	5.1	10.2	12.8
硬式テニス	7.9	8.7	8.9	17.1	4.7	10.5
バスケットボール	6.3	8.7	10.7	10.1	7.6	10
武道(柔道・剣道・空手など)	10.2	6.5	8.9	11.1	6	9.7
エアロビクス	0.8	13.3	8.9	7.1	10.2	9.5
硬式野球	15.7	3.8	10.7	6.1	3.8	9
軟式野球	15.7	1.1	19.6	7.1	2.1	8.7
ハイキング	3.9	8.3	7.1	3	8.9	7.9
太極拳	6.3	5.3	8.9	11.1	2.6	7.2
ソフトボール	10.2	2.3	12.5	8.1	1.8	6.9
ジョギング	1.6	6.5	8.9	2	5.5	4.9
ソフトバレーボール	0	7.2	5.3	10.1	2.6	4.9

(6) スポーツ活動の満足度

図5は、現在のスポーツ活動の満足度をあらわしたものである。全体では、「大変満足している」「まあまあ満足している」と答えた人は、51.3%であり、満足

している人が多い。性別で男性の6割が満足している。

加入の有無別で比較すると、満足している人はA群が60.6%、B群の45.4%、C群の51.5%であり、A群に満足している人が多い。

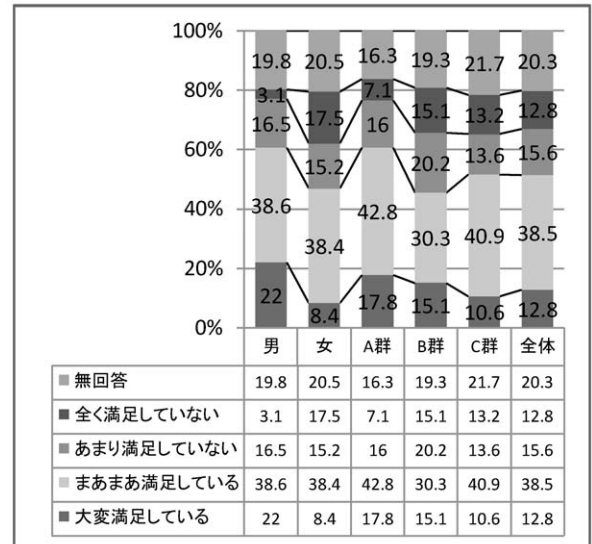


図5

3. 吉井スポレククラブ

(1) 吉井スポレククラブ(総合型地域スポーツクラブ)の理解度

図6は総合型地域スポーツクラブの理解度について表したものである。全体では「よくわかった」が10.8%、「だいたいわかった」が69.0%で約8割の人が総合型地域スポーツクラブについて、ある程度理解してもらえたことがわかる。吉井スポレククラブに加入している人たちの9割は理解してもらえたことがわかる。

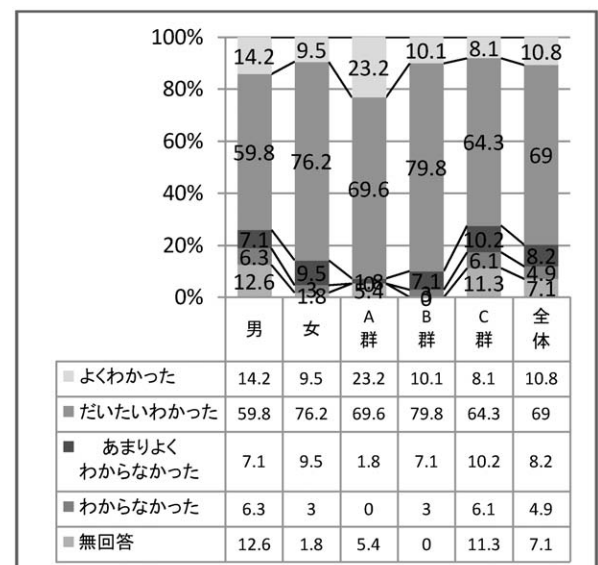


図6

(2) 吉井スポレククラブの認知度

図7は、吉井スポレククラブの認知度についてあらわしたものである。全体では、「よく知っていた」「だいたい知っていた」「聞いたことはあった」と答えた人は77.4%となっており、約8割の人が、吉井スポレククラブについて何らかの形で知っていたことがわかる。性別で比較すると、女性よりも男性の方がよく知っており、男性の方が地域との結びつきがあると考えられる。

加入の有無別に比較すると、「よく知っていた」「だいたい知っていた」と答えた人は、A群の96.4%、B群の80.9%、C群の71.5%となっており、加入を希望するB群の人への啓蒙活動が必要ながわかる。

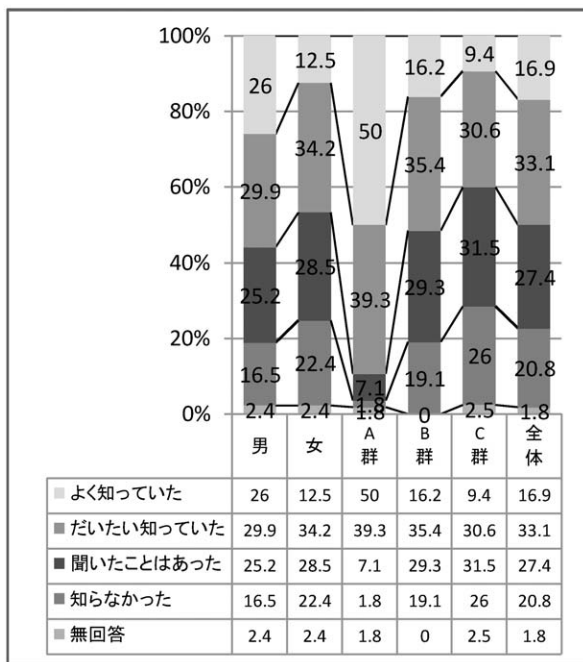


図7

(3) 勧誘の有無

図8は、吉井スポレククラブへの勧誘の有無についてあらわしたものである。全体では、「ある」と答えた人は26.9%であり、あまりクラブへの勧誘を行っていないことがわかる。性別では、男子の方が多い。

加入の有無別に比較すると「ある」と答えた人は、A群の83.9%、B群の25.3%、C群の14.0%である。B群とC群の勧誘が不足していることがわかり、もっと積極的に勧誘を行うことが必要である。

(4) 加入理由

表5は吉井スポレククラブへの加入理由上位の意見は「スポーツが好きだから」・「スポーツを楽しむため」・「体力づくりのため」・「健康づくりのため」でスポーツ愛好家で健康に留意していることがわかる。また、

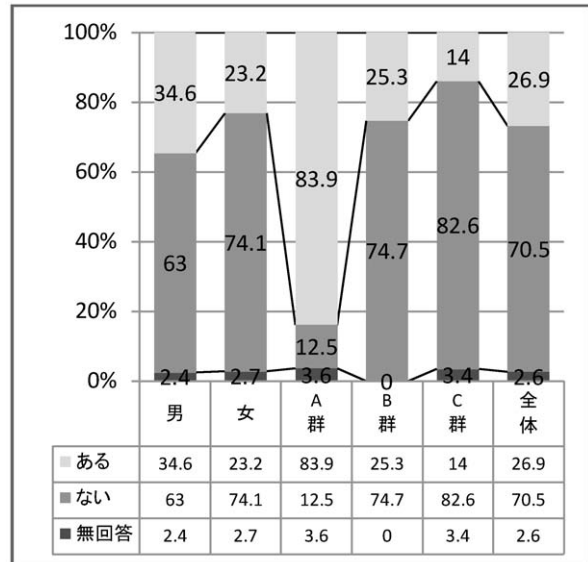


図8

その他で多かったのは、「泳げるようになりたかった」・「保険が付いていたから」などがあり、それ以外は「強制的に誘われた」という。いい意味で言えば、勧誘という手段でスポーツを始めるきっかけになった。

表5

項目	男	女	全体
スポーツが好きだから	8.7	4.6	41.1
スポーツを楽しむため	7.9	4.6	39.3
体力づくりのため	6.3	3.4	30.4
健康づくりのため	4.7	3	23.2
その他	6.3	2.3	19.6
運動不足を解消するため	5.5	1.1	16.1
地域の人と交流するため	5.5	0.4	14.3
気分転換・ストレス解消のため	3.1	1.1	12.5
美容や肥満解消のため	0.8	1.1	7.1
家族のふれあいのため	0.8	0.8	7.1

(5) 加入後の変化

表6は、吉井スポレククラブ加入者に、クラブ加入後の変化を聞いたものである。全体では、「新しい仲間が出来た」が33.9%と最も多く、次いで、「スポーツの楽しさを知った」の23.2%、「変化はない」の21.4%、「ストレス解消になった」の10.7%、「生活にメリハリができた」の7.1%と続いている。性別で比較すると、男性は全体の結果と同様で、女性は「新しい仲間が出来た」は一緒であるが、「スポーツの楽しさを知った」と「変化はない」が次にきている。クラブ加入後に、生活にメリハリが出来たり、吉井スポレククラブのイメージが変わったという人も多い。クラブ加入がきっかけとなり、地域への愛着が深まったが、地域行事の参加までにはいたらない。図9では加入者

全体的にほぼ満足していることがわかる。

表6

項目	男	女	全体
新しい仲間が出来た	7.1	4.2	33.9
スポーツの楽しさを知った	5.5	2.7	23.2
ストレス解消になった	3.1	1.5	10.7
他の地域行事に参加するようになった	0.0	0.0	0.0
地域への愛着心が深まった	0.8	0.4	1.8
健康になった	0.0	0.4	1.8
地域の役員活動に積極的になった	0.8	0.0	1.8
生活にメリハリができた	0.8	1.1	7.1
吉井スポレククラブのイメージが変わった	0.0	1.1	5.4
その他	0.8	0.4	3.6
変化はない	4.7	2.7	21.4

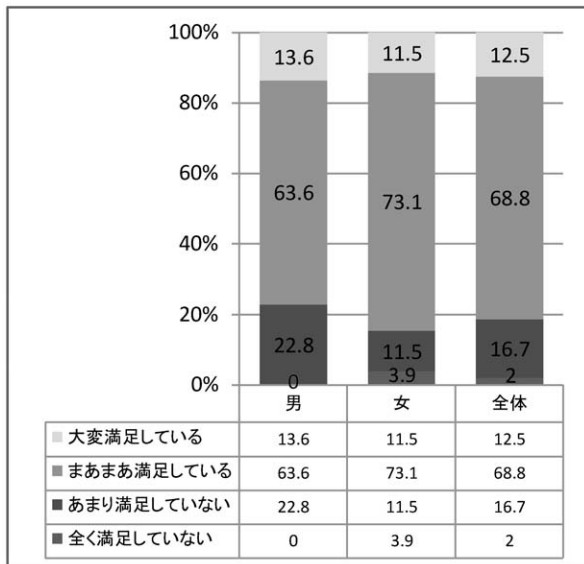


図9

(6) クラブ加入条件

表7は、現在「吉井スポレククラブ」に加入していない人に、クラブ加入条件について聞いたものである。全体では、「自分のレベルにあった運動ができる」の24.9%が最も多くなっており、次いで、「安い値段でスポーツができる」の21.5%、「子供たちと一緒に参加できる」の20.3%、「一緒に活動する仲間がいる」の14.9%である。このことから、多様なプログラムが行われ、健康チェックしてもらえるようなシステムを作ることが必要である。また、仲間づくりにおいては、クラブハウスに代表されるような、スポーツを行った後にコミュニケーションが出来る空間が必要である。性別で比較すると、男性は、「いろいろなスポーツができる」「自分のレベルにあった運動ができる」が多くなっている。

加入の希望別で比較すると、クラブ加入を希望しているB群では、「自分のレベルにあった運動ができる」「一緒に活動する仲間がいる」「子供たちと一緒に参加できる」が多くなっており、B群を加入させるためには、多様なプログラムと仲間づくり、または親子でスポーツが出来る環境が必要であることがわかる。図10からは未加入者全体の約2割以上は加入の可能性がある。

表7

項目	男	女	B群	C群	全体
自分のレベルにあった運動ができる	15.7	28.9	36.4	26	24.9
安い値段でスポーツができる	11	26.2	31.3	22.6	21.5
子供たちと一緒に参加できる	13.4	24.3	39.4	17	20.3
一緒に活動する仲間がいる	12.6	23.2	34.3	16.6	14.9
いろいろなスポーツができる	15.7	12.5	24.2	11.9	13.3
専門的な知識をもった指導者がいる	10.2	13.3	22.2	10.2	11.8
健康チェックしてもらえる	6.3	9.5	10.1	9.4	8.2
その他	7.9	7.2	15.1	10.2	7.4
スポーツ以外の活動(文化活動)もある	0	7.6	0.8	5.5	5.4
多様なプログラムを提供してくれる	3.9	6.1	9.1	4.7	5.1
いろいろな世代と交流できる	2.4	4.9	11.1	2.1	4.1

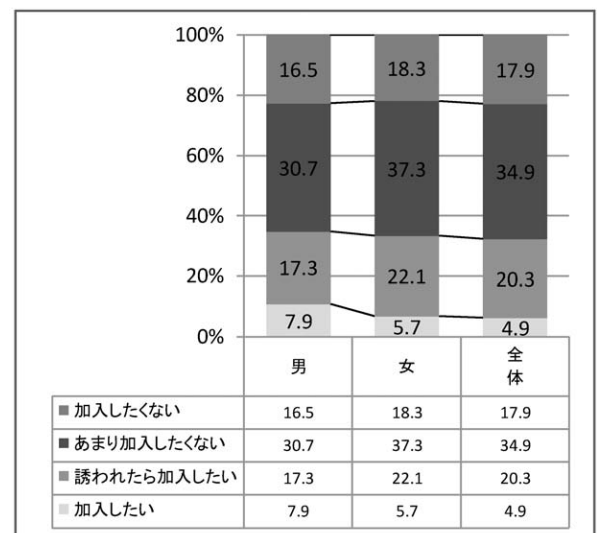


図10

(7) 参加したいスポーツ教室

表8は、参加したいスポーツ教室上位20種目についてあらわしたものである。全体では、上位10種目をあげると、「ヨガ」の15.4%が最も多く、次いで、「テニ

ス」の11.5%,「バレーボール」の9.2%,「バドミントン」の8.5%,「ダンス」の7.9%,「ストレッチ」の6.4%,「エアロビクス」の5.9%,「水泳」の5.6%,「野球」「バスケットボール」「サッカー」「太極拳」「ウォーキング」の5.4%の順になっている。このことから、商業スポーツクラブで行われているフィットネス系のプログラム(ヨガ, ストレッチ, 太極拳, 筋力トレーニング), 個人で手軽に行われる健康づくり的な運動(ウォーキング, 体操), 個人もしくは少人数で行われる球技(バドミントン, テニス, 卓球)に高いニーズがあることがわかる。また, 集団で行う球技はニーズが低い。性別で比較すると, 女性は「ヨガ」の希望が多く, 「体操」「ウォーキング」「ストレッチ」でも男性より高い値を示している。このことから, 男性よりも健康志向が強く, 商業スポーツクラブで行うようなプログラムを行いたいと考えているようである。

加入の有無別に比較すると, A群では, 「サッカー」が最も多く, 「野球」「バレーボール」「ヨガ」「ウォーキング」が多くなっており, 現在実施している種目に加え, 健康づくりの教室に参加したいという傾向にある。一方, B群では, 商業スポーツクラブで行われているフィットネス系のプログラム, 個人で手軽に行われる健康づくり的な運動, 個人もしくは少人数で行われる球技のニーズが高く, 全体と同じ傾向がみられる。B群を加入させるためには, ニーズの高い種目の教室を開催することが求められる。

表8

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
ヨガ	2.4	25.1	12.5	23.2	12.8	15.4
テニス	7.9	14.8	7.1	24.2	7.2	11.5
バレーボール	2.4	12.2	12.5	14.1	6.4	9.2
バドミントン	5.5	17.1	7.1	15.2	6	8.5
ダンス	1.6	14.1	0	21.2	4.3	7.9
ストレッチ	3.2	8.4	10.7	8.1	4.7	6.4
エアロビクス	0.8	11.4	8.9	8.3	2.6	5.9
水泳	3.9	8.4	3.6	8.3	3.4	5.6
野球	17.3	0.4	12.5	8.1	2.6	5.4
バスケットボール	5.5	6.1	7.1	7.1	4.3	5.4
サッカー	11	2.7	14.3	5.1	3.4	5.4
太極拳	8.7	4.9	8.9	9.1	3	5.4
ウォーキング	3.9	5.3	12.5	5.1	3.9	5.4
武道(柔道・剣道・空手など)	7.9	3.4	10.7	8.1	2.6	5.1
卓球	10.2	3.8	3.6	8.3	1.7	4.6
筋力トレーニング	7.9	3	7.1	9.1	2.1	4.6
体操	1.6	5.7	1.8	7.1	2.1	3.3
ソフトバレーボール	0.8	5.3	7.1	7.1	0.9	3.3
ソフトボール	6.3	0.4	8.9	2	1.7	2.8
グランドゴルフ	0	2.3	1.8	4	0.9	1.8

(8) 将来のスポーツクラブの会費

吉井スポレククラブの現在の会費は2,000円であるが, 将来の会費についてたずねたものが図12である。全体では, 「2,000円未満」が37.4%と最も多く, 次いで, 「2,000円～3,000円未満」の30.1%, 「3,000円以上～5,000円未満」の10.0%と続いており, 少しばかりの会費の値上げはかまわないと思っている人が多い。性別で比較すると, 3,000円以上と答えた人は, 男性27.7%, 女性11.4%であり, 男性の方に多く払ってよいと思っている人が多い。

加入の有無別に比較すると, 3,000円以上と回答した人は, A群21.5%, B群17.2%, C% 14.5%であり, 加入しているA群の人が会費を多く払ってもよいという傾向がみられる。

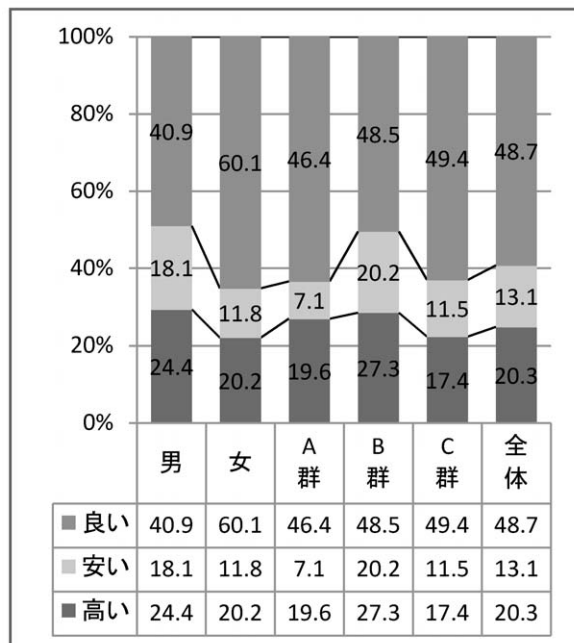


図11

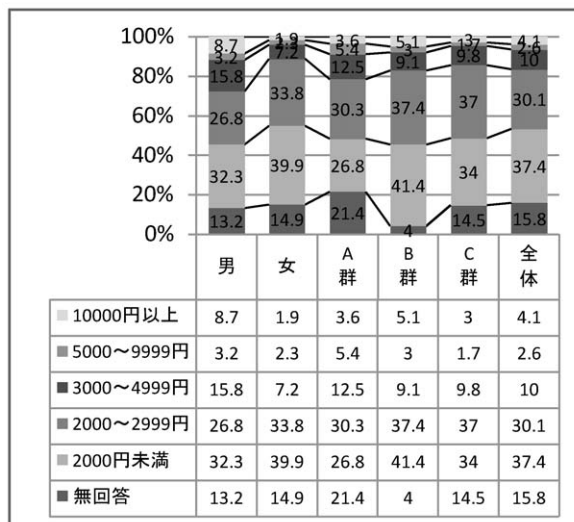


図12



(9) ボランティア・指導者としての参加希望

図13は、吉井スポレククラブへのボランティアあるいは指導者としての参加希望者をあらかわしたものである。全体では、「参加したい」が3.3%、「誘われたら参加したい」が13.3%であり、肯定的に答えた人は16.6%である。あまり積極的とはいえないが、この2割の人を参加させることが大切である。性別で比較すると、「参加したい」「誘われれば参加したい」と答えた人は、男性22.1%、女性の14.8%であり、男性の方が積極的であるといえる。

加入の有無別に比較すると、「参加したい」「誘われれば参加したい」と回答した人は、A群39.3%、B群30.3%、C群5.6%であり、加入に対して積極的な人ほど参加しようとする傾向があるといえる。

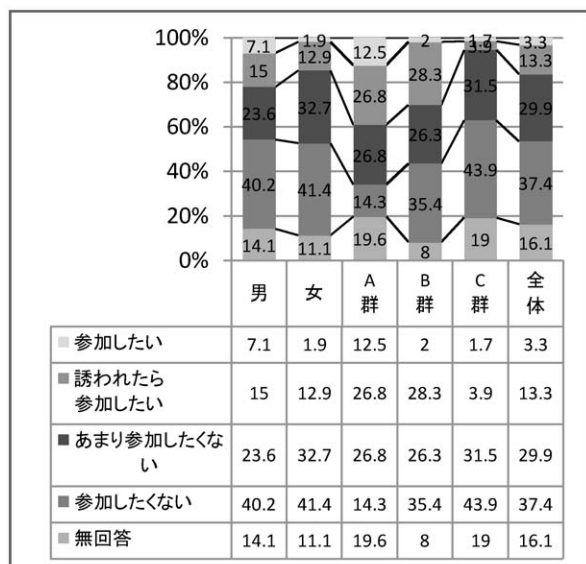


図13

(10) クラブへの期待

表9は、吉井スポレククラブにどのようなことを期待しているかをあらかわしたものである。全体では、「生きがいづくり」が30.8%と最も多く、次いで、「青少年の健全育成」の30.0%、「集団遊びの復活」の19.5%、「住民の居場所づくり」の11.5%、「部活動の強化（一貫指導）」の10.8%となっている。性別で比較すると、あまり差はみられないが、「生きがいづくり」「住民の居場所づくり」は、女性の方が多く、生活するにあたって吉井スポレククラブに期待している。

加入の有無別に比較すると、すべての項目において、A群とB群の割合が多くなっており、C群は少ない。加入しているA群、加入を希望しているB群は、「吉井スポレククラブ」に対する期待の大きさがうかがわれる。

表9

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
生きがいづくり	26	36.9	26.8	42.4	26.8	30.8
青少年の健全育成	29.1	32.7	37.5	31.3	27.7	30.0
集団遊びの復活	20.5	21.3	30.4	28.3	13.2	19.5
住民の居場所づくり	9.4	15.6	16.1	18.9	7.7	11.5
部活動の強化（一貫指導）	16.5	9.9	12.5	16.2	8.9	10.8
誇れる地域愛	12.6	11.8	14.3	14.1	8.1	10.5
その他	5.5	3.8	1.8	2	3.9	3.1
医療費の削減	3.9	3.4	5.4	0	3.4	2.8
経済への波及効果	3.9	1.1	0	1	2.6	1.8

IV. コミュニティ意識

鈴木広は、コミュニティ意識をコミュニティ・モラルとコミュニティ・ノルムに分けているが、本稿ではコミュニティ・モラルからみていく。

コミュニティ・モラルは、人々のコミュニティに関する関与の程度を知るための概念装置である。したがって、コミュニティ・モラルが高いほど、コミュニティ形成にとって望ましいといえる。また、コミュニティ・モラルは感情、統合認知、参加意欲の三要素からなっている。

感情は、愛着感、同一感、安定感、満足度などといった感情の水準を問うものである。

統合認知は、コミュニティというまとまりについて評価するものである。

参加意欲は、参加意志、役割意識、使命感、達成欲求など、コミュニティに対する関与の強さを表すものである。

コミュニティ・モラルに関する質問文について次のような内容である。

<感情>

1. 安堵感…外出してこの町に帰ってきた時に、「自分の町に帰ってきた」と感じてホッとしていますか。
2. 同一視…人からこの地域の悪口を言われたら、何か自分の悪口を言われたような気になりますか。
3. 仲間意識…この町に住んでいる人たちはみんな仲間だという気がしますか。
4. 好き嫌い…この町（地域）が好きですか。

<統合認知>

1. まとまり…この町の人たちのまとまりはよい方ですか。
2. リーダー…この地区のリーダーたち（町内会とか婦人会、PTAなどの役員など）はがいて地域のためによくやっているといますか。

3. 相互扶助…この地区に住んでいるみんなは、お互いに何かと世話しあっていますか。
4. 団結心…この町の人たちはお互いに協力する気持ち（団結心）が強い方だと思いますか。

<参加意欲>

1. 役割意識…この町のためになることをして何か役に立ちたいと思いますか。
2. 地方政治…この町や校区を代表する市議員を出すことは大切だと思いますか。
3. 地域行事への参加…町内や校区で一緒にする行事（運動会、寄付、清掃、署名活動など）にあなたは参加する方ですか。
4. 行事関心…町内、校区内でするいろいろなこと（役員改選、年中行事、建設、道路事業など）にあなたは参加する方ですか。

そして、これらの質問に対してはすべて五段階にランクづけされた回答、例えば、「この町（地域）が好きですか」に対しては、①非常に好き、②やや好き、③どちらでもない、④やや嫌い、⑤非常に嫌い、などを用意した。

図14～図19は、感情（好き嫌い）、統合認知（相互扶助、団結心）、参加意欲（役割意識、地域行事への参加）をあらわしたものである。今回はこれ以外に関しては、アンケートで聞くことはできなかった。

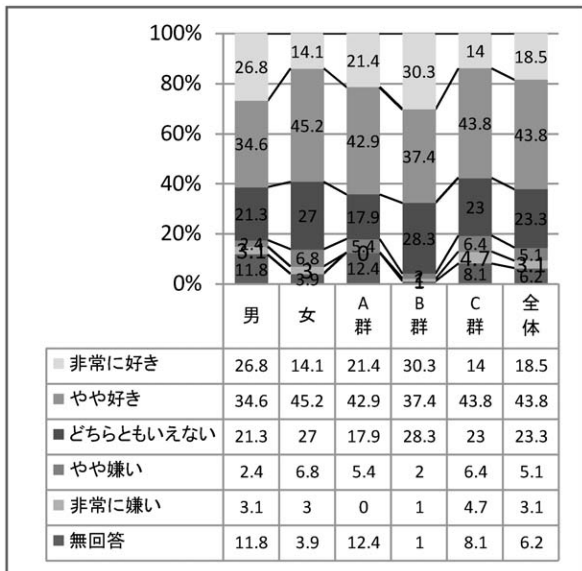


図14（好き嫌い）

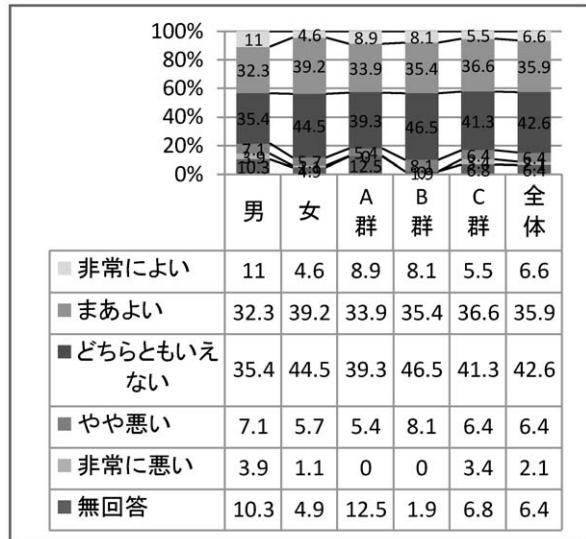


図15（まとめ）

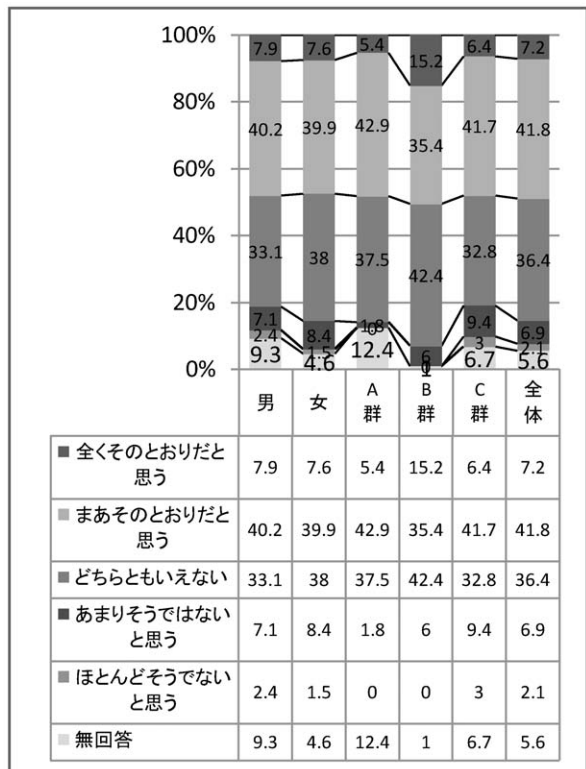


図16（相互扶助）

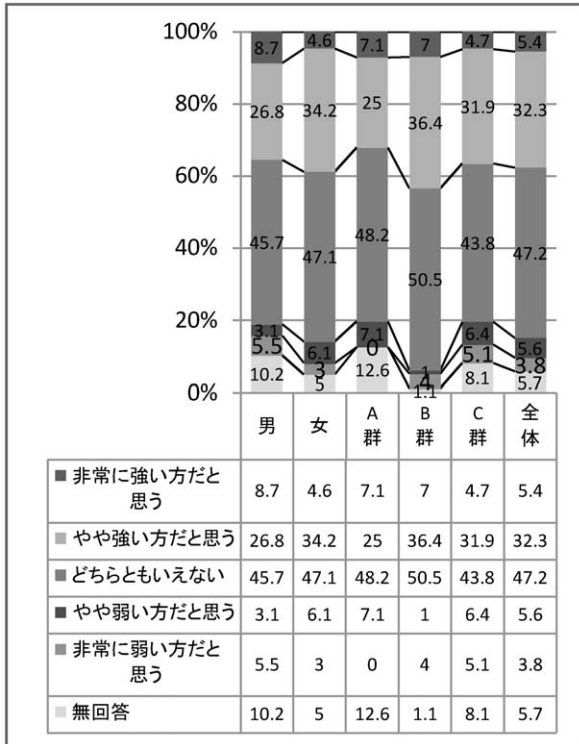


図17 (団結心)

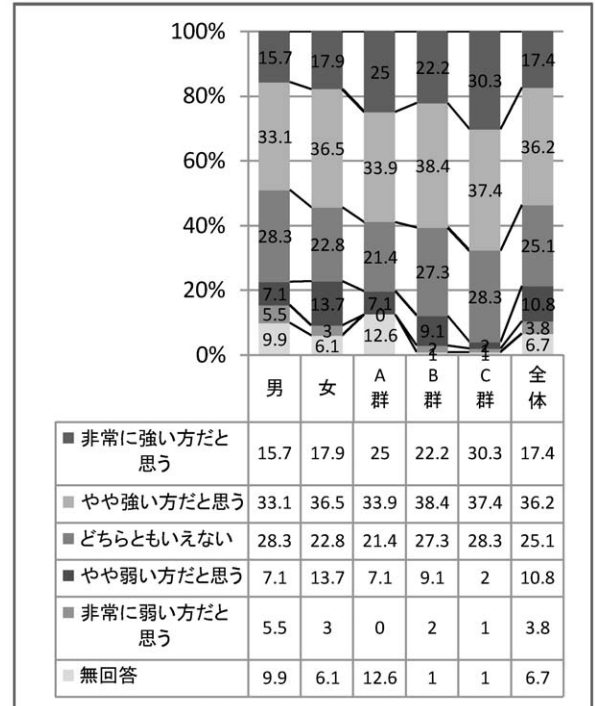


図19 (地域行事への参加)

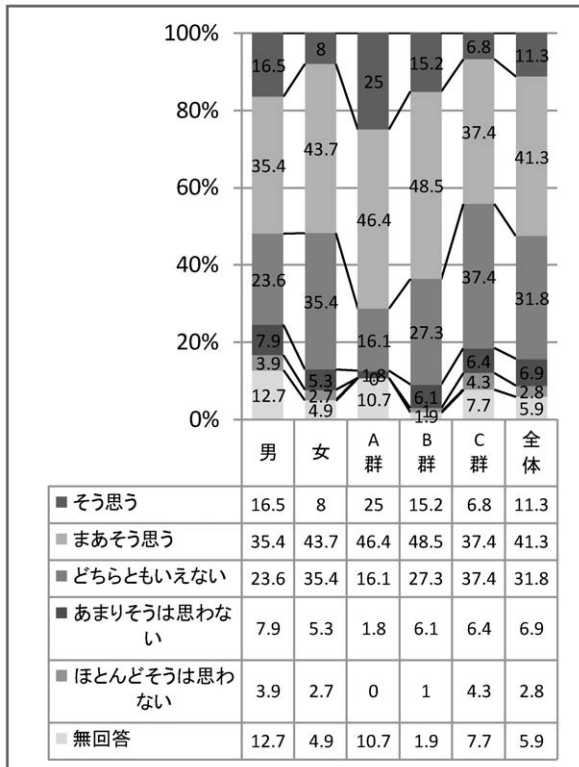


図18 (役割意識)

全体をまとめると、コミュニティ意識はA群が最も高く、次いでB群、C群となっている。つまり、「吉井スポレククラブ」に加入した人の多くは、クラブでの活動を通じて地域との関係を密にし、そのことがコミュニティ意識の形成に寄与したものと考えられる。B群は、直接的に地域との関係はあまりないが、表9のクラブに対する期待から、地域に対する思いが強いことがわかり、こうしたことがコミュニティ意識の形成につながっていると考えられる。B群の人たちがクラブに加入し、地域との関係を深め、思いを実現する立場になれば、さらにコミュニティ意識が高まるものと推察される。C群の人は、地域とのつながりがあまりなく、地域行事の参加に対しても消極的であり、コミュニティ意識が低いことがわかる。今後ともC群の人々に対しては、イベントや魅力ある教室を開くなどの働きかけが必要である。

## V. 結論

(1) 吉井スポレククラブ加入者 (A群) は、定期的なスポーツ活動を実施しており、スポーツ活動への満足度も高い。クラブ加入希望者 (B群) は「散歩・ウォーキング」「軽い体操」などの手軽で個人で行う種目を実施しており、A群に比べると実施頻度は低い。また、今後のスポーツ活動はこれらの種目に加えて、「ダンス」「ヨガ」などの種目に対して

ニーズを持っている。

(2) クラブに対する認知度は、クラブ加入者、加入希望者、加入非希望者(C群)の順に認知度が高い。クラブへの勧誘については、未加入者(B群、C群)に対してあまり勧誘していないため、今後はこれらの人々に対して勧誘が必要であろう。

(3) クラブ加入者の加入後の変化として、「新しい仲間が出来た」という人が多く、クラブが社交の場になっており、特に男性にとって顕著である。

(4) クラブ未加入者の加入条件として、多様なプログラムがあり、健康チェックしてもらえようシステム構築、スポーツ実施後のコミュニケーションを行える場づくりを指摘する人が多い。

(5) 参加したいスポーツ教室は、商業スポーツクラブで行えるようなフィットネス系のプログラム、個人で手軽に行われる健康づくり系の運動、個人もしくは少人数で行われる球技にニーズが高い。

(6) 会費については、現在の会費を8割以上の人の方が安いと感じており、特に加入希望者が一番それを感じており、もっとお金を払ってもいいと思わせるプログラムの提供がクラブの発展につながるものと思われる。

(7) クラブ加入者、加入希望者、加入非希望者の順にコミュニティ意識が高く、吉井スポレククラブ加入者は地域におけるコミュニティ形成に寄与していると思われる。

(8) 岡山県レクリエーション協会と組み、レクリエーションインストラクターの指導者講習会会場を誘致し、インストラクターを吉井地区で増やしたり、様々なレクリエーションスポーツ講習会を開催し、その講習会から教室へと発展させ、仲間作りを行う。また、スポーツをするのは苦手であるが、講習会などを事務的に支える人たちも増やすことが大切である。

## 参考文献

- 1) 鈴木広編(1978)「コミュニティ・モラルと社会移動の研究」アカデミア出版
- 2) 堺賢治, 藤原誠, 山本孔一(2004)「総合型地域スポーツクラブ設立のための住民調査」
- 3) 堺賢治, 藤原誠, 山本孔一, 黒川真由(2005)「総合型地域スポーツクラブ育成のための住民調査」
- 4) 堺賢治, 藤原誠, 山本孔一, 伊賀上旭(2006)「総合型地域スポーツクラブ育成のための住民調査」

(平成22年11月19日受理)